

星 埜 和 監修
伊吹山四郎 編集主幹

交通工学シリーズ (全 35 巻)

内 田 一 郎*

昭和 40 年 1 月に刊行が開始された交通工学シリーズ全 35 巻 36 冊が、このたび最後の巻の出版をみて、ここに完結した。この 8 年余の長い間世話され、無事この事業を終えられた編集者および出版社のご努力に敬意を表する次第である。

わが国の陸上における人、物の輸送について考えるに過去においては鉄道が主役で、道路は単なる脇役にすぎなかった。しかし、自動車の増加、道路の整備に伴ってその役割は重要になり、小まわりがきく、出発地から目的地へ直接行けるなどのすぐれた特質のために、道路は鉄道と補完し合いながら、わが国の陸上交通の主役を果たすようになった。しかし反面、道路の整備が自動車の増加に追いつけないための混雑、排気ガス・騒音等の交通公害の発生など、多くの困難な問題が起こってきている。また、昭和 38 年名神高速道路の尼崎—栗東間の開通に始まる高速自動車道も現在では 1000 km をこえ、ここにも新しい課題が生まれてきている。

以上のような道路交通の問題に関して、その実態を把握し、解析し、道路の計画・設計、あるいは運用に合理的な基礎を与えるために本シリーズは刊行されたものであるが、全く時宜に適したものである。いままでに交通工学に関していくつかの著書が出版されていて、それぞれ読者にとって役立っていた。しかし、1 冊の本に交通工学全般を含ませるためには、要点しか示すことができず、具体的に細部にわたって述べることは、不可能である。本シリーズはこの欠陥をおぎなうものであり、ある特定なこと、例えば交通流を理論的に知りたいとか、インターチェンジについて知りたいとかいうときに、これによって具体的に詳しく学ぶことができるわけである。交通工学全般を学ぶためには、もちろん 1 冊にまとめられた交通工学の著書も必要であるが、それをおぎない、深く学ぶためにはこのシリーズはきわめて有効である。

交通工学は、いろいろな分野と関連した多角的な視野を必要とするものである。その関連分野を明らかにするためには、交通工学の定義をはっきりしておく必要がある。星埜和氏によると

「交通工学とは、道路および街路を利用して行われる人と物の移動について、科学的な計測と調査を行って、その実態を明らかにし、交通の流れや発生機構に関する経験的法則あるいは基本的理論を立て、得られた資料と知識とに基づいて、道路、街路、交差点、ターミナル設備などを含めた交通システムの計画・設計ならびに運用を行い、合わせて沿道の土地および他の交通手段との関係を取りあつかい、これによって人と物の移動を安全、円滑、かつ快適なものとするとともに、環境との調和を図ることを目的とする工学技術の一分野である」(本シリーズ第 1 巻、星埜和：交通工学総論、pp. 11~12)

この定義からもわかるように、関係する分野は多岐にわたっており、道路工学、自動車工学はもちろん、都市計画、環境工学、心理学、経済学、法制等多くのものとの深い関連をもっている。本シリーズは、交通理論、交通心理、交通経済、道路および交通の調査・計画・設計・運用等に関連した現段階で考えることのできる、ほとんどすべてのことを取り上げている。本シリーズの執筆者は現在わが国の第一線において活躍しておられる人びと 55 名である。これらの人びとが、日常専門とし、経験されていることをまとめられたものだけに、読者にとって実感をもってせまるものがある。活用していただいて、わが国の道路の整備・運用あるいは公害防止等のために役立てていただきたい。

交通工学は比較的新しい学問であり、発展途上にあるものである。したがって、今後新しいものが生まれてくることも少なくあるまい。いままでに改訂増補された巻もあるが、今後ともそれぞれ交通工学の進歩、発展に即応して書き加え、書き直していただければ、さらに完全なものになっていくだろう。また、時代の経過とともに新しい問題が生じてくる。交通公害、道路交通情報等はシリーズの最初の計画にはなかったが、後につけ加えられている。このような形で、このシリーズをいつまでも生命のあるものにしていただきたいと願っている。

技術書院刊、A 5 判・80~300 ページ、定価 350~980 円 (送料 @110 円)、全 35 巻総価格 23 530 円 (一括購入割引)。内容カタログ等は技術書院・電話 03-265-3371 番へ問合せ下さい。

* 正会員 工博 九州大学教授 工学部土木工学科